

UA神奈川学習センター はるだより

2004/4/1 発行

第7巻第2号(通巻26号)

目次:

特集

「所長のあいさつ」 2

エッセイ 3

学生団体・サークル
のお知らせ 6

センターだより
7周年記念 9

放送大学神奈川学習センター
〒232-0061横浜市南区大岡2-31-1

TEL:045-710-1910

FAX:045-710-1914

<http://u-air.net/kanagawa/>

E-Mail:social@u-air.ac.jp

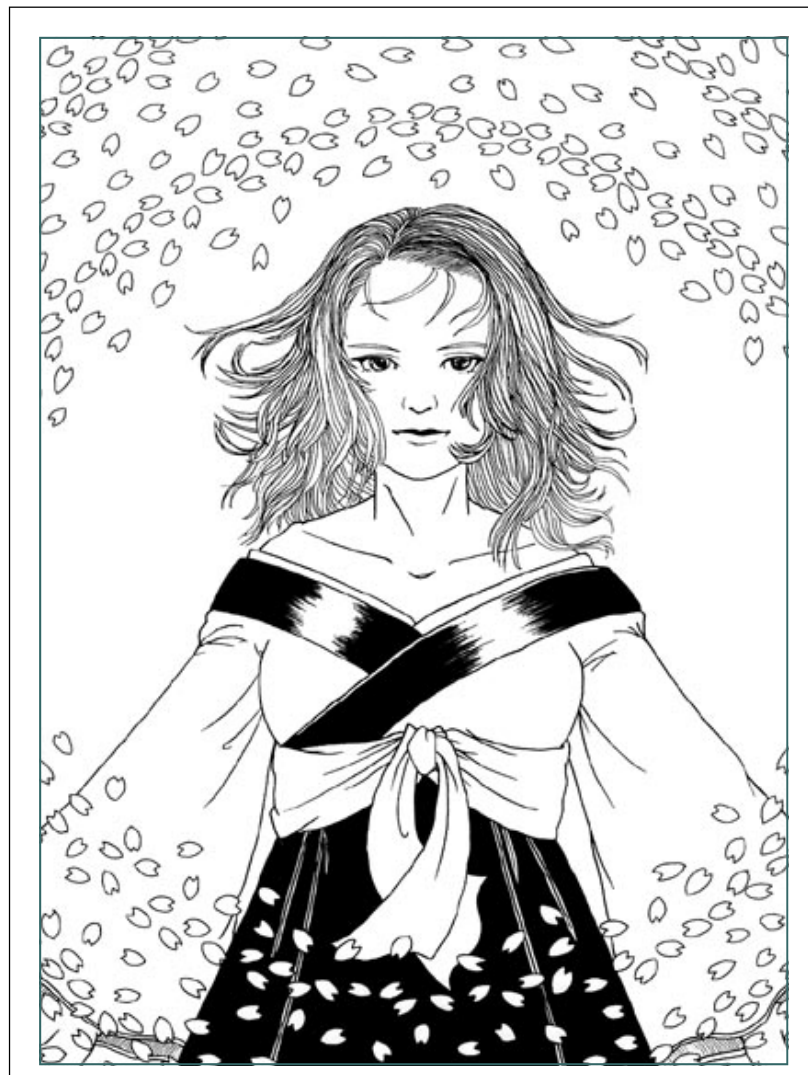


イラスト:坂戸五葉

新任のご挨拶

森谷 正規

この度、神奈川学習センターの所長を務めることになりました。これまで、学生の皆さんにお会いするのは、面接授業と卒業研究だけでしたが、これからいろいろな機会に顔を合わせることになるのを楽しみにしています。

私の研究分野は、現代技術論です。技術はどう進むのか、どのような技術が必要になるのか、いま日本の技術は本当に強いのかなどの技術にかかわる現実的な問題を考えています。そこで、いま執筆中の本の中から、多くの人に興味を持っていただけるであろう事柄を一つ紹介します。

日本の技術と産業にとって現在の最も重要な問題は、1970 - 80年代には抜群に強かった技術が、90年代に入って強さに陰りが見えてきたようだが、本当のところはどうか、ということだと思います。それに関して私は、「国際協力におけるパラドックス」という考えを提示しています。

90年代に入って日本は、半導体で韓国に抜かれるようになりました。最近は液晶ディスプレイでも、韓国、台湾に抜かれています。これは、先端技術製品ですが、先端技術

は日本は、韓国、台湾など後発国より断然強いはずではなかったのか。一方、乗用車では日本は非常に強く、韓国や中国などはまだまだ日本には到底敵いません。この乗用車は、技術が急速に進む訳ではなく成熟技術です。成熟技術は、後発国が先進国に追いつきやすいのではないかと。

このように、理論的に、あるいは常識的に考えられることとは逆のことが生じているのが、パラドックスです。現実の社会は、とても複雑ですから、パラドックスは存在するのです。

このパラドックスで著名であるのが、同じような国際競争力に関するコンドラチェフのパラドックスです。正確に言えば、「比較優位」に関する問題ですが、ある国が他の国に対して、どのような製品で優位に立ち得るかという問題です。そこで、資本と労働の面から比較優位を見る理論が提起されました。豊かな資本を持つ国は、資本集約製品で強く、安い労働力を持つ国は労働集約製品で強いという理論です。常識的に考えてもそうですね。ところがコンドラチェフは、米国が労働集約製品を輸出しているという事実を見出したのです。

学生の皆さんに申し上げたいのは、現実の社会は複雑であり、理論や常識を越えた事実があるということ、しっかりと踏まえて、勉強に取り組んで下さいということです。楽しみながら、頑張ってください。



退任のご挨拶

神代 和俊

私は平成10(1998)年春、横浜国立大学(経済学部)を定年退官したあと、放送大学に奉職し、「産業と技術」専攻に属して「産業と労使の関係」(1999)「産業と労使」(2003)、「中小企業の挑戦」(2003)を担当しました。また、大学院の発足に伴って、「政策経営プログラム」に所属し、「経営システムII」(ヒューマン・リソース・マネジメント)を担当しました。当初は5年間の予定のところ、大学院設置の関係で6年間働くことができたのは幸いでした。とくに、後半の3年間は、神奈川学習センターの所長を兼務し、放送大学の土台である学習センターの業務に携わることができました。

神奈川学習センターは、学生数でも常にトップ3の座を維持し、地元の横浜国立大学の協力と支援を受けて、おかげさまで円滑に業務を遂行することができました。関係者のご好意に厚く御礼申し上げます。

私の在職した6年間は、後から振り返ってみると、わが国経済が未曾有の危機と困難に直面した時期に当たります。バブル経済崩壊後、一時立ち直るかに見えた景気は、橋本内閣の財政再建路線やアジア金融危機の影響を受けて挫折し、円高、グローバル経済化、IT革命、金融不良債権の急増、少子高齢化の進行などの荒波にもまれることになりました。幸い、昨年後半からようやく景気も底入れし、回復の兆しが見えてきましたが、中東情勢はテロの激化とともにますます不透明になっており、アメリカの大統領選挙の行方も見極めにくい形成と

なっております。こうした時代には、社会人が日常生活に埋没することなく、つねに視野を広げ、新しい情報知識を吸収して、仕事のあり方や生き方を問い直していく必要が、ますます大きくなっていると思います。

ご承知のように、放送大学は昨年10月、行政改革の一環として特殊法人から学校法人(特別な私学)に組織換えされ、本年4月からは国立大学も独立行政法人化されます。わが国の高等教育は、今、明治維新、第二次大戦後の学制改革と並ぶ大きな変革期を迎えています。高等教育の分野に「市場原理」が強まることは、よい面もありますが、大きなリスクをも抱えております。何よりも「法人」が、経営者としての才覚と教育者としての使命感をいかにして両立させるかが問われています。そのなかで、学習センターが学生のニーズにどう応えていくか、カリキュラムの編成や面接授業、情報サービスの提供の面で新しい工夫が求められるものと思われまます。諸兄のご健勝を祈り、お礼の言葉に代えます。



「この場所」とのお別れ

坂井 素思

春の弘明寺には、楽しみがいっぱいあった。学習センターの一角を占める早咲きの桜が満開になるころから、それは始まった。近くの大岡川に入びとが集まりだし、つぎの桜がつぼみを膨らませ、花が咲くかどうかというときに、神奈川学習センターの「入学者の集い」が開かれた。好奇心に満ちた入びとが、いつも何か楽しみな新しい風を吹き込こんできた。

桜に誘われるようにして、この学習センターへ出勤するのが好きだった。例の池田小事件がある前、国大構内がこんなに警備の厳しくなかったころは、附属中学校脇の小径を通して、のんびりとセンターへ入った。遠目にセンターの壁が見え、今日これから取りかかる仕事のことをぼんやりと思い浮かべながら、センターへ着くのが日課だった。枝が垂れ下がって

いて、ここの桜もきれいだった。

研究室は、陽のあたらない北側にあったが、書籍に埋もれて申し分のない塹壕を早いうちに築いたおかげで、居心地のよいコーナーを保つことができた。数年前ひとつの仕事をやり終えた記念に、椅子を新調した。すっばりと身体全体を包み込んでくれて、しかも自由に身体を動かすことができる空間を確保できた。この場所で生み出すことのできた仕事は、傍目にはたいしたものには見えなかったかもしれないが、自分のなかでは珍しいものであった。思えば、この学習センターへきて、19年が過ぎてしまったが、わたし自身にとって、感謝すべき場所、聖なる場所があるとすれば、それはこの場所をおいて外にない。

仕事がうまくいかないときに、音楽を流して、自分を問い直す時間を与えてくれたのも、この場所であ

る。仕事が進みすぎて、軽い目まいに見舞われたのも、この場所である。到底自分にとって達成できないような仕事をどうやらやり終えたことのあるのも、この場所である。そして何よりも、仕事を終わらせ家へ帰る前に、すべての明かりを消しスイッチを切った後、ほんとうに自分は何をしたいのかを思い出させてくれたのも、この場所なのである。

夜になると、センター裏の路をまわって、帰途に着くことにしていた。研究室の窓に枝垂れかかる桜の真っ白なことは、この世のものとは思われなかった。この場所に、このまま吸い込まれてしまっても本望だとさえ感じたものだった。ここをたとえ離れたとしても、桜の咲くころには、いつもこの場所の楽しかったことを回想するにちがいない。さようなら。

蛭田正和

『アンコールワットと外国語』

エッセイ

苦労して勉強する外国語、でも、使う機会って本当に無いんですね。英語ならまだしも、その他の言葉って本当に機会が無いんですね。ほんの、一言でいいのです。言葉を交し合えるとチョット嬉しい。私が外国語を使った機会をチョットご紹介します。

去年アンコールワットに行きました。ヨーロッパからの人、アジア各地からの人 色々な地域からここに来ていました。日本人はとっても多いのです。おかげで、色々な外国語を耳にしました。アンコールワットはすばらしかったです。そして、周辺にたくさん寺院があります。アンコールワットほどの規模は有りません。人も少なくゆっくりと落ち着けてこちらは見る事が出来ます。

時折、すれ違う人にチョット挨拶。ハイ！返してくれるハイ！チョット嬉しいものです。次にすれ違う人は？？ニイハオ！ニイハオ！サワディークラブ、サワディー カ、アンニョンハセヨ、アンニョンハセヨ、チョット嬉し

いです。絶対にこちらから 笑顔と共に挨拶すると面白いのです。それは、笑顔返してもらえるからです。嬉しくなります。

そして、他の寺院に移動すると、各寺院それぞれに違った表情があります。いいですよー。

さっきの寺院ですれ違って挨拶した人にまたすれ違いました。今度はむこうから 挨拶してくれました。チョット嬉しいのです。その人とは、いろいろ話す事が出来ました。他に同じように何人かの人と話しをすることが出来ました。こんなところで、自然に何人もいくつかの外国の人と話しが出来るとは思っていませんでした。お互い外国人、自分の国の言葉で挨拶されるってきっと気持ちいいんですね。その自分の良さと、寺院の雰囲気とが、色々なことを自然に話す事が出来るきっかけになったのかなと思いました。

今から思えば、名前を聞いたり写真の一枚でも撮っておけば良かったと思います。

アンコールワットとその周辺の寺院は印象的ですし、色々な外国語に接する機会にもなりますし、なにより自然に話が出来る環境はいいと思います。

この場所で、英語、フランス語、ドイツ語、日本語、中国語、韓国語、タイ語、もちろんカンボジア語などを聞きました。

放送大学で皆さん何かしらの外国語を勉強していると思います。もし、アジア方面に旅行を考えている方、アンコールワットは如何でしょう。こんな特典と歴史とアジアを感じられますし、いいですよー。

私の使った外国語は、挨拶の言葉だけがほとんどです。中国語、英語、タイ語、韓国語です。挨拶だけでも、受け答えがあると会話したって気分（実力の有る人は挨拶以上でどうぞ）になります。気持ちが通い合った気分になります。浮かれてますかね。私・・・。

夜のカフェ

佐々木 健充

ぼくは大作を描く気はないんだ。
 小さな幸せが欲しくて
 今日 このカフェでコーヒーを飲みながら 煙草を喫っている。
 カフェで一本の花を見ていると
 子供の頃観た絵本のストーリーが思い浮かんできた。
 孤独な少年が「みんな」に囲まれるようになるまでをえがいた作品だった。
 少年は家の裏庭にある石畳の石を 一枚はがし 一本の苗木を植えた。
 少年は何度か花を死なせてしまったけれど最後には 花は復活して
 花が咲いているので虫が来た。
 虫がいるから鳥が来た。
 鳥が来たから猫が来た。
 そして「みんな」に囲まれた少年は幸せだった。
 ぼくも 親、兄妹、友達と
 幾度となく衝突をくりかえすけれど
 本当はみんなと一緒に居たいのです。

エッセイ

放送大学で学んで

服部 安恵

私が放送大学に入学（編入）したのは、平成13年4月のことです。入学のきっかけは、10年程前から患っていた関節リウマチが徐々に悪化し、長年働いてきた小学校教諭の仕事から離れることになったことからでした。

小学校教諭の仕事は大変な面もありましたが、やり甲斐もあり喜びも大きいものでしたし、私には「病気を持つ私が働くことは、マイナス面だけではないはず。私が働いていることで、何かを学び取ってくれる人たちもいるはず。」という信念もあったので、退職を決断するのには迷いもありました。けれども教師の仕事はまた、“子供たちの安全を保障していかななくてはならない”という責務を負っている仕事であることも事実で、それには健康な身体が不可欠。そうこう考えた末、「この仕事に拘らなくても、今自分がやれることを精一杯やればいい。」という結論に至ったのです。

そして“自分の第2の人生のスタート”として選んだのが、この放送大学でした。放送大学は、以前妹が、ピアノ講師をしながら在学していたこと、また、自分の職場にも毎年案内が届いていたことなどで、その存在は知っていました。けれども、正直言って、これほど本格的に学習できるとは思っていませんでした。私には、カルチャースクールの延長のようなイメージがあったのです。

そんな私の考えは、入学してみても打ち消されました。教科の選択肢が想像以上に広く、内容も新鮮で奥深いものでした。また、教師陣も素晴らしく、放送授業でも面接授業でも、今までの自分の不勉強さと無知を反省させられることばかりでした。それに、ここで学んでいる人たちがまた素晴らしく、面接授業などでの的を射た鋭い発言をする人や、重い障害を抱えながらも熱心に学習する人、その人たちを陰で支えるボランティアの人など、多くの人の存在を知ることができました。

専攻は、「人間の探求」。卒論には、“吉田新田”の開発に関わるものを選びました。“吉田新田”は、江戸初期に内海を埋め立てて作った、11,544アールにも及ぶ広大な新田です（現在の伊勢佐木町周辺）。これを卒論のテーマに選んだのは、横浜の小学校では、地域の開発の例としてこの吉田新田を取り上げて学習しているところがいくつかあり、自分も在職中に興味を持ってあちこち調べに歩いたことがあったこと、その時は調べきれなかったことを、確かな知識として纏めてみたいと思ったこと、そしてもし必要があれば、友人（かつての同僚）達にもこれを役立てて貰いたい（仕事は離れても、子供たちの為にささやでも役に立ちたい）という気持ちからでした。先生のご指導を受け、未熟ながらもなんとか自分なりにまとめることができ

て、この夢を叶える事ができました。また、必要な単位を取れば養護学校の教諭の資格もここで取れることを知り、これにも挑戦しました。（現在、全ての手続きを終わり、交付を待っているところです。）仕事として使うのが無理でも、ボランティアなどでも使える日が来ることを期待しながら。

それから、通信制の大学とはいえ、やはり新しい友達もたくさん作りたいと考え、勇気を振り絞って（というのも、英語は苦手中の苦手だったので）英会話サークル・“ウェルカム”に入り、活動してきました。会話力は相変わらず伸び悩んでいますが、素敵な人たちと大勢知り合いになることができ、楽しい大学生活を送ることができました。

来年は、大学院と大学の両方に籍を置き、関心のある教科をいくつか学習しながら、次のステップを考えていきたいと思っています。家族は「すぐにあちこちと出歩く放浪癖のお母さん」と笑いながらも、放送大学を通じて新しい生き甲斐を見つけた私を、暖かく応援してくれています。

この楽しい学生生活を一人でも多くの人たちに知ってもらいたいと、今私は、会う人ごとに放送大学のことを勧めています。

学生団体・サークルの お知らせ

中国語学習会

『中国語学習会』朱 老師（先生）
から新入学生へのメッセージ
（中国語学習会・広報係）

みなさん、ご入学おめでとうございます。私は、朱と申します。北京におりました時、私は北京の中学で数学を教えておりました。夫が日本のパソコンの会社で働く事になり、北京から日本にまいりまして4年になります。私はいま放送大学の「中国語学習会」で中国語を教えております。中国語学習会で学生のみなさんと一緒に楽しく中国語を勉強し、私自身多くの友達ができたと嬉しく思っております。

私は、中国の北京で生まれました。北京は中国最大の都市であり、最も古い四つの都市の一つでもあります。近年北京を訪れる観光客は益々多くなりました。北京を旅行するという事は、世界的な観光地として有名な世界文化遺産である故宮、十三陵、八達嶺長城、頤和園などを観光できるというだけでなく、中国各地からの名産品や美味しいものを味わうことができます。何故ならここ（北京）には、中国各地の名産店が集まっているからです。沢山食べて沢山遊んだ後、観光客のみなさんは、朝の5・6時頃になりますと大小の公園で、太極拳や気功などを楽しんでいる人々を見かける事ができますし、また鳥籠を片手に散歩している老人を見かけられます。

北京は、昔からの由緒ある建築物もあれば、いかにも現代的な高層ビルもあり、気ぜわしく行き交う若者もいれば、長閑に時を過ごす老人もいます。北京は、古いもの、新しいもの、自国のもの、海外からのものなど物質的なものと精神的真髄とも言われるものが共に融合し存在しています。私は、この自分が生まれ育った私の街がとても好きです。あなたが中国語の学習を始めて上達するにつれ、北京に対する理解が深まれば、必ずや私と同じように感じられることでしょう。

この度新しく入学されたみなさん、是非「中国語学習会」に参加し、私た

ちと共に楽しく充実した学習生活を始めましょう。ありがとうございます。

「中国語学習会」 朱 老師 記
（訳： 中級クラス 出川・堀籠）

『中国語学習会』学習内容と日程の紹介

学習内容

初級 放送教材「中国語」使用

中級 「生活在中国」（北京語言

文化大学出版社）を教材とし、会話中心

日程

第三日曜日

午前10:00～12:00 中

級

午後13:00～15:00 初

級

お二人の中国の先生から学んでいます。毎月の日程は入り口正面掲示板に掲示されます。ご都合の良い日には是非一度見学にお越し下さい。会員一同心からお待ちしています。

事務局 045-752-1626 明田 梅太郎
（会長）

045-712-0903 吉原 司郎
（初級担当）

『中国語学習会』のネット情報

神奈川放送大学のみなさん、大学にはいろんなサークルがあり、様々な活動をしていますね。私たちの「中国語学習会」では、定例の中国語学習の他に会員同士の親睦と交流を図るためにrakuraku-chinaというネットを通して様々な情報を互いに提供しあっています。今回は、その中の一編をご紹介させていただきます。大連にいま留学している中級の仲間からのメールです。（中国語学習会・広報係）

澤村さんからの「大連便りNO.5」

2003年9月27日

rakuraku-china掲載

中国語学習会の皆さんへ

皆さん今日は！ お元気にお過ごしのことと思います。放送大学の新学期もまもなく始まりますね。私も一年前に放送大学に入り、中国語学習会に入会させていただきました。放送大学にはいり学習の機会を得ることができ、また皆さんと知り合い

になれたことをうれしく思っています。早いもので大連にきて一ヶ月たちました。毎日が新しい体験の連続で、いささか疲れ気味ですが、幸い今日27日から来月5日まで国慶節の大型連休に入り一息入れることができます。

一般学生や公務員、民間企業は10月1日から7日までが休みのようです。多少各市によって休みの期間が異なります。休みの期間は正式には各地方政府より公示されます。中国は最近数年春節、メーデー、国慶節は国策で大型連休にしています。消費を刺激する為です。国が国民に海外旅行や国内旅行を積極的に奨励しています。特に今年のメーデーはサース騒ぎで人の移動が厳しく禁止されたこともあり、この国慶節は各都市とも観光客の誘致に力を入れています。外地（中国では都市から離れた内陸部を外地と呼んでいます。）の人たちが大連など沿海地域の都市の観光に訪れるので大連のホテルはこの期間どこも満室でホテル代も高くなります。

一部の日本人留学生は内蒙古に3泊4日で旅行にゆきます。私も誘われたのですが、用事ができ残念ながら参加できません。

モンゴルは尊敬する司馬遼太郎の<モンゴル紀行>を読んで感動し、前々から是非行ってみたいところだったので。パオに泊まり、馬乳酒を飲みながら羊肉の丸焼きをナイフで切りながら食べる。馬に乗り、草原に寝そべて満天の星を見る。何時の日か是非実現させたいと思っています。費用は3泊4日で汽車賃、宿泊込みで750元だそうです。

今月から遼寧師範大学の日本語学科の学生と相互補導（交換教授）をしていますので彼等から聞いた学生生活の一端を紹介します。日本語学科は一学年4クラスあり、各クラス25名。全部で100名です。男性は各クラスとも3-4名であとは全部女性です。理由は男性は将来の就職のことを考え理科系を専攻するためです。全寮制で4年生は一部屋に8人、3年生は6人、2年生は4人と年毎に改善されてきているとのことですが、寮費も当然高くなって来

ています。彼等は寮の部屋では勉強せず、皆学校の教室や図書館で勉強します。私の補導も学校の教室を利用しておこなっています。消灯時間は10時半。二三年生で日常会話程度の日本語は問題なく話せます。学費は年間39000元、寮費12000元、その他食費や日用品の費用50000元 合計年間一万元ほどかかるそうです。これは今の中国でも大変負担の重い額です。中国では中学まで義務教育ですが、実際にはかなりの教育費がかかり問題になっています。

特に農村出身の学生の親の負担は大変です。自分が作る農産物をお金ではとても学費などまかなえないのが中国の農村の現状です。そこで子供の学費を稼ぐために父親は大都市に出かけ打工（日雇い労働）するのです。

中国の人口は13億とも14億とも言われていますが、その9割が農民で彼等は依然として貧しい生活をしいられているのが現状です。ある友人は中国の失業率は90%だと言う。つまり農村の現状は失業状態と同じだと言うのです。従って農村出身の学生たちは親の苦勞をよく知っているの、良く努力し、勉強します。私と相互補導している遼寧省の農村出身の女子学生は国慶節に帰郷したら落花生の刈り入れの手伝いをするのだとあっておりました。

今日本で報道されている経済的に繁栄を享受しているのは沿海地域の一部の人たちにすぎないのです。それが今の中国の現状です。貧富の格差が年毎に大きくなってきており中国にとって当面する大きな政治課題です。

内陸への投資の奨励もその一環です。内陸部ではまだ貧困のため義務教育さえ受けられない人々がたくさんおりその人たちのために「希望工程」と言う貧困地区失学青少年基金が何年前に設立され民間の慈善運動として広まっています。地域によっては貧困のため小学校さえ行けない児童が内陸部にはまだたくさんいるのです。これも今の中国の現実です。

確かに今の中国は年率7-8%の経済成長を遂げておりますが、それ

は沿海地域に限られており、人口の多数を占める内陸の農民の生活改善は遅れています。私たちは中国の抱えるこの両面の矛盾を見落とさないようにしていくことが大切だと考えています。

長くなりましたので今日はここまでとします。

沢村 雅嗣

“うえるかむKanagawa”は神奈川県

うえるかむKanagawa

習センターに所属する学生及び卒業生のための英会話グループです。

*英会話を何年も学習したが話せない

*以前は話せたがすっかり錆びついてしまった

*海外旅行に行った時など英語でもっと話してみたいと、思っていたら

しゃる方々も多い事と思います。午前中はネイティブの先生を迎へ初級、中級に分かれてfree talkingや先生の用意した教材を楽しみながら学習しています。午後は自主学習で、ラジオ基礎英会話やGATEWAYSをテキストに、文法や発音、リスニングの練習をするグループと、日頃のニュースやトピックを話題にしてopen discussionするグループ等に分かれています。海外ビジネスで実践英会話を身につけた方々もおります。午前又は午後どちらか一方の参加でも、都合の良い時だけでもかまいません。

*例会 毎月第2、第4水曜日

AM10:00~11:00 中級

AM11:00~12:00 初級

PM13:00~15:00 グループ学習

*“うえるかむKanagawa”の母体である“うえるかむ”の行事は休日だけ、又1年に1度しか出席できない人達も集り各支部合同で親睦を深めています。今迄にタイ、台湾、イギリスのオープン・ユニバーシティを訪問、オーストラリアでのホームステイも体験しています。昨年は横浜中華街での暑気払い、白馬散策、秋はわたらせ渓谷散策と群馬天文台での星座観測、本年3月27日には“桜の下を歩こう、出来たてのビールを飲もう”と銘打って、文京センターのメンバー担当で成城から府中の方へ

と出かけました。皆様も是非お仲間になりませんか。

*サークル参加ご希望の方は下記へお問い合わせ下さい

野末：044-287-0270

星：045-844-9647

【例会】

人間学研究会

4月4日(日) カウンセリングと私

5月16日(日) (内容未定)

6月12日(土) (内容未定)

7月11日(日) (内容未定)

8月は、学習センター祭「フェスタ・ヨコハマ」に、参加予定。

例会は、会員発表(卒業研究を含む)などの内容です。入会前には、見学ができます。例会についてのお問い合わせは、
Tel: 045-302-1121 松本まで。

【歩きましょう】

4月4日(日) 旧甲州街道(藤野~初狩)を歩く

4月17~23日 第1回塩の道ウォーク(御前崎~飯田)

5月8日 日帰りハイキング

5月中旬 第2回塩の道ウォーク(飯田~松本)

6月2~6日 第3回塩の道ウォーク(松本~糸魚川)

6月 日帰りハイキング

7月上旬 北東北地方へ(場所未定)

8月 [海外遠征] オーストラリア北部

9月 日帰りハイキング

9月下旬 苗場山へ

10月1~3日 第4回しまなみ海道スリーデーマーチ

10月中旬 吾妻山・安達太良山へ

11月5~7日 日本スリーデーマーチ(埼玉県東松山市)

11月下旬 第2回四国88ヶ所巡り(第18~23番札所)

宗教的な巡礼ではありません、歩くことが目的です。

12月11日 年忘れハイキン

グ

12月23日 第12回汽笛一声
ウォーキング

日程など変更になる場合があります。予備日等の記載は省略していますので、参加を希望される方は、下記まで早めにお問い合わせください。

歩きましょうについてのお問い合わせは、

Tel : 046-841-7937 大出 まで。

神奈川放友会

新入学の皆さん入学おめでとう御座います。

神奈川放友会は会員相互の親睦を図り学習を援助する

イベントとサレ活動を行っています。

行楽と研修を兼ねた旅行

一泊研修旅行(大学本部・博物館等)

旅にいこう会(行楽・名所旧跡等)

情報交換(学習履歴表)と会員相互の研究発表

ITを利用したサレ活動

HP開設

清風亭ネットの会(E-Mailグループ)

インターネット俳句の会

パソコン初心者講習等々

学生生活を充実させ交流の輪に加わる方を歓迎します。

行事予定(4月~9月)

4月4日(日) 入学式・会員勧誘と歓迎会

4月25日(日) 16年度総会/4月例会

5月23日(日) 5月例会、情報交換

6月20日(日) 6月旅にいこう会

7月11日(日) 7月例会

8月下旬 フェスタ・ヨル(8学生団体の共催)

9月11~12日 9月旅にいこう会(大学本部に一泊研修)

清風亭ネットの会でも随時イベントを企画しています。

照会/入会申込先

〒251-0025

藤沢市鵜沼石上1-13-13-506

芝崎 芳和

Tel/Fax 0466-25-0090

E-Mail shibasun@gray.plala.or.jp

神奈川放友会のHP

http://www.h5.dion.ne.jp/~jinhoyu

神奈川放友会 活動報告

面接授業も大方終わった2月15日の日曜日、樋口一葉 所縁の町を訪ねる放友会の2月旅にいこう会に参加して来ました。

参加者 20名 吉田会長 田島副会長 柴崎理事 木村理事 吉原理事 奥隅会計監査 斎藤(多)理事 堀籠さん 岡本氏 寺村氏 木下氏 吉木氏 南丘さん 家田さん 姫田氏 遠藤氏 浅井さん 長谷川氏 明田夫妻

最高のお天気に恵まれ 横浜駅(京急改札口09:30)に集合、JR横須賀線 地下鉄丸ノ内線乗り継いで本郷三丁目(10:30)からのスタート。皆さん和気藹藹の内に駅周辺のお弁当やお昼のお弁当を買いに行くと偶々弁当店の社員研修を兼ねて無料サービスとの事でお茶とおにぎりを只頂いて参りました、恐らく全員が恩恵に浴したと思います。本当に幸先よいスタートに成りました。

さあ、愈々出発(10:45)です、先ず本郷通り赤門に行き入口から構内を見回し今日は見学は出来ないとの事で一応 校舎だけを見て赤門を出ました。本郷薬師にお参りし(11:10)写真などそれぞれ撮り恰も撮影会のような感じでした。此処は寛文十年(1670)建立で真光寺の境内だったそうです。

法真寺、浄土寺を経て菊坂町70番地、18歳の一葉の本郷菊坂の借家跡を見学、家は現在残っていないが町並みに当時の面影が残っていました。又、伊勢屋質店は現在は営業していないが昔の面影のまま建っていました。一葉親子は着物や帯を持って幾度となく近所の伊勢屋質店へ走って急場を凌いだそうです。(11:45) 菊坂下、歴史と文化の散歩道を通り一葉終焉の地(丸山福山町四番地)に達し石碑を拝観、文学界に名声が高まる中一葉の身体を肺結核が蝕み明治29年11月23日帰らぬ人となった。(12:00)

石碑拝観後、地下鉄春日駅より三ノ輪駅へ直ちに浄閑寺史跡(浄土宗 近く

に吉原がある)を拝観後一葉記念公園に到着少し遅い昼食となりました。この公園は一葉記念館の前にあり公園の隅に(一葉女史たけくらべ記念碑)がありました。早春の快い日差しを浴びながら此処まで歩いてきた疲れを癒しつつ先ほど無料で頂いたおにぎりとお茶で腹一杯食べました。

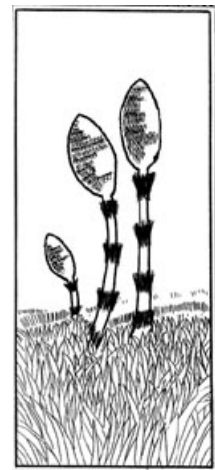
さて、午後からのスケジュールはなんとと言っても一葉記念館の参観になります。(13:10) 団体割引で100円で入館しました。町の名前は竜泉寺町と言い町の人々は一葉がこの地に住み母子三人で生活苦と闘いながら、不朽の名作「たけくらべ」の素材をこの地で得た事に深く感銘し一葉の文学業績を永く後世に残すべく有志相集い記念館を建てたのが其の由来です。館内には種々様々な一葉自筆の短冊、書簡、数知れぬ書画等等何を見ても特に毛筆の達筆には深い感銘を受けました。

一葉会館を後に(14:40) 竜泉町の道路脇に一葉旧居跡碑をみた。一葉はこの町で貧民に混じって暮らし、当時書かれた日記の表題には「塵のなか」が用いられている。大鳥神社、飛不動尊に参詣後タクシーに分乗して浅草雷門にむかいました。此処で一応今日のイベントは終了と言う事になりました。

この後 電気プランの神谷バーにて打ち上げの飲み会になりました。日曜で大変混んでいましたが予約していたのでよい席でジョッキと電気プランで乾杯できました。

樋口一葉所縁の地巡り、報告を終わります。

明田 梅太郎 記



同窓会

講演会へのお誘い

1.
日 時：平成16年5月16日
(日) 14時～16時
場 所：神奈川学習センター
講義室

演 題：宇宙(そら)のロマン・天文への誘(いざない)
講 師：放送大学非常勤教員
佐藤 英男 先生
専門分野：天文学(変光星に密むカ

オスの振る舞いについての観測的研究)

H2ロケットの打上げ・火星の大接近・火星探査の開始・新惑星の発見等、
何かと話題の多い天文の世界。

星が生まれ死ぬまでの長い時の流れ、無限?有限?、銀河系外銀河等ロマン溢れる星物語に心躍る天文の世界へのお誘いです。

2.
日 時：平成16年6月20日(日)
14時～16時

場 所：神奈川学習センター 講義室
テーマ：情報家電とネットワーク技術の展望と将来～ブロードバンドとユビキタス時代を迎えて～
講 師：三菱電機情報ネットワーク株(同窓生) 和田 正純 氏

情報が物やエネルギー以上に有力な資源となる情報社会は、二十一世紀に入り、ますます情報入手手段が多様化してきております。情報社会の基本概念から、最新情報技術など、皆様が興味を持たれている事など、知識の交流をなさして下さい。

祝 UA神奈川学習センターだより 7周年記念

「センターだより」 創刊七周年
花吹雪
緞帳の彩あざやかや花吹雪
知恵袋開く学園花吹雪
影武者のセンターだより花吹雪
花吹雪能ある鷹の集ひをり
花吹雪風は季節のナレーション
花吹雪美しき陽のかから浴ぶ
学園はパステルカラー花吹雪
青雲のころもて編む花吹雪
スタンドに湧くウエーブや花吹雪
七年のステップ祝う花吹雪

松本道男



脳と想い出

吉田 昭二

UA神奈川学習センターだより
7周年記念

センター便りは2004年1月発行の第7巻第1号(通巻25号)で7周年を迎えた、今朝改めてホームページで1欄表を閲覧して感慨を新たに、創刊準備号からの編集委員の一人として心から嬉しく思うと共に坂井先生始め委員の方々のご指導に感謝している。

7年間の想い出のトピックスは2001年9.11同時テロと45日間の胃全摘手術入院に続いて国際的にはアフガン、イラク戦争があり国内的には何と言っても北朝鮮の拉致問題であるが当然ではあるがセンター便りの紙面には殆ど反映されていない。

茲で「想い出す」と言う脳の働きと「保存ファイル閲覧」するコンピュータの働きとの違いは何だろうか

り留めのないことを考えた。

一枚宛デジカメ写真を見るように過去を想い出す時其処には60年過去も、30年過去も、つい1週間前の区別も無く更には過去の1時点を転機として別の自分史を創造(未来を想い出す?)することも出来るのである。

この様な脳の働きはコンピュータのOS、プログラム、データに喩えれば生後数年でOSの部分は固まり以降経験を通じてプログラムとデータを習得保存する、「想い出す」と言う脳の働きは夫れを再現し閲覧するのに相当すると考えられないか。

研究者は脳をコンピュータと考え脳の働きにコンピュータの究極の姿をイメージしているのだろうか?又は脳とコンピュータは別物で異なる

物と考えているのだろうか?、私の考えは後者でその根拠は単純でコンピュータは無限の処理は出来ないが脳は出来るという点にある。

小学校以来の私を取り巻く社会環境を想い出してみた、小学校は2回転校、中等学校では太平洋戦争と海軍兵学校入港、終戦復員、高校編入と大学、又就職から停年までの35年間は合併、転勤、業務変更、左眼摘出手術等により、更に退職後放送大学入学を経て編集委員会までの11年間では高校・塾の講師、アルバイト等により社会環境は二三年おきに変化していたがセンター便りを始めてから最近の7年間は胃全摘手術入院を除けば変化はなく連続無変化の新記録を更新中である。

私はチェックマン?!

遠藤嗣子

早いものです!センター便りを創刊して7年が経ちましたが、私には7年と言う数字には余り実感がありません。それは、センター便りが季刊紙であるため編集会議は年4回程度行われたにすぎなかったからなのかもしれません。創刊当初はある種の使命感のようなものがあつたせいか、もっと編集会議を開いた方がよいのでは?と感ずることもありました。創刊当初の使命感はどこへやら、今では年4回の編集会議こそが7年間継続できた大きな要因であつたと思つています。

センター便りとの7年間は、少々オーバーな言い方をすれば私にとって激動の歳月でした。突然主人の両親と同居の話が持ち上がり、そして同居が決定しました。早速二世帯住宅建設のための土地探しが始まりました。土地が決定すると次はハウス

メーカーを決定。そのハウスメーカーとの様々な交渉や度重なる打ち合わせを行い、ようやく完成・引渡、そして両家の引っ越し。同居が決定してからの1年間は駆け足で過ぎていきました。同居して4ヶ月後義父の入院、そしてその2ヶ月半後義父を見送りました。一昨年の秋には実家の母が脳梗塞を患い入院しました。幸いにも軽度だったとはいえ完全に機能回復したわけではありません。今でもリハビリ中です。その間何度も編集委員の辞退を申し出たのですが、現在に至っています。これも年4回の編集会議のお陰かも知れません。

編集委員を経験して新しい自分を発見?しました。もしかして『私はチェックマン?!かもしれない』と。原稿集めに奔走していた頃、いろいろな原稿を読んでいくうちに書

かれた文章が微妙に気になり始めました。あるとき原稿の主である友人と友人関係にひびが入るかも知れない、と思うほど何度も何度も電話やFAXを使って話し合いました。その出来上がった原稿を坂井先生は面白いと言って下さいました。その時は達成感、充実感でいっぱいでした。そして『私はチェックマン?!かもしれない』、と実感したときでもあつたのです。幸い友人の寛容さで大事には至らなかつたことは言うまでもありません。

改めて日本語の面白さや難しさ、そして何より書き手が読み手に自分の意志や考え、感情などを適格に伝えることの難しさを実感しています。これからも“わかりやすい文章とは?”“読みやすい文章とは?”を常に頭の片隅に置きながら原稿を読んでいきたいと思ひます。

7周年を迎えて 星 礼子

“UA神奈川学習センターだより”が発行されてから今年の1月で7年目を迎えた事を知り、時の速さに驚いています。当時、同窓会の先輩でもあった若い五十嵐さんから、坂井先生と神奈川学習センターの会報とホームページを立ち上げる準備をしているので編集委員になって欲しい、と頼まれました。私はもともと文才もないしパソコンも出来ないしと、躊躇していましたが、同窓会やサークル活動で顔も広いから原稿集めは出来るでしょうと、ついその気にさせられて、センター便りとお付き合いする事になったのです。

懐かしく今迄の27刊を振り返って見てみますと、1997年12月15日の創刊準備号から1月の初便りと続き、4月1日発行の“はる便り”が記念すべき第1巻創刊号となっています。当時神奈川学習センター長でおられた浜口充子先生の“創刊によせて”が1面に掲載されています。先生は、この創刊号は神奈川学習センターという小さな場でのニュースであるかもしれないけれど、インターネットという媒体で広く外の世界に、日本全国の学友に向けて

名言・名句を収集の書『ことばの森』の中に、ギリシャの哲学者ソクラテスが述べられている言葉に惹かれるものがある。引用させて貰うと“書物を読むという事は、他人が辛苦してなし遂げたことを自分に取り入れて自己を改善する最良の方法である”と悟るのである。極く当り前の事で吾々も小学校時代から良い書物から学びなさいと教えられてきた事を、改めて考え直すと“優れた人々と会話を交わすようなもの”と述べられたデカルトの教えに頷いてしまう。

今私たちの周辺には良い書物が沢山ある。なれど年中それを漁る訳でもない。何故なら豊富な糧があっても我が頭にぎっしり詰め込めないか

発信されるものであるから、一人でも多くの人に関心を寄せ内容の濃い神奈川学習センターらしいものにして頂きたい、と期待を込めて下さいました。他の学習センターに先駆けて最初に独自のニューズレターを創り出す編集委員の一員として、微力ながらお手伝い出来る事を嬉しく思ったのでした。

はる、なつ、あき、ふゆ、各便りの季節に合ったカラーを決め、特集を組み、今迄大勢の仲間に原稿をお願いしてきました。友人の顔を見ると、今度のテーマはこの方がピタリ、とすぐ思ってしまう習慣がいつの間にかついてしまいました。さすが放送大学の学生はレポートを書き慣れている事もあり、快く引き受けて下さる方が多く助かります。学習センター夏祭りのフェスタ・ヨコハマでは、坂井先生の用意された“原稿募集”のちらしを手に、ピール片手に談笑している中をお邪魔してまわります。読書感想文とか、旅行、ボランティアの事、エッセイ等、何

らである。そこで必要な事は、吾が身相応の読み易い文章が求められるのではなからうか、幸いにも、私たち放送大学の学生仲間が発する考察や体験談は、同じ教科を習得し同じ苦労を至て切磋琢磨している同じレベルの手本とも云えよう。つまり『神奈川学習センターだより』の投稿文も、私たちの自己改善に一役かっており、思わぬ刺激を得ているのである。顧みるに、このセンターだよりが創刊されて七年がたち、多くの学友の洗脳に意義を深めていたと思う。七度生まれかわって我に報いてきたと自己満足しており、近年巷でいう生涯学習を、私たち自身が率先してその足跡を固めている

UA神奈川学習センターだより 7周年記念

でも結構ですからとお願いし名前と電話番号を教えて頂いた時は本当に嬉しいものです。学生団体やサークル、同窓会の紹介もしていますので、時にはインターネットで探したのでサークルを見学してみたいと、学外の方から照会がある事もあります。他の学習センターの友人達にも神奈川のホームページは好評で、その後を見てみますがまだ神奈川のような学習センター全体のものは出ていないようです。イラストは現在まで2,3人の方をお願いしていますが、2000年4月からは坂戸五葉さんが素敵なイラストを画いて下さって皆様も楽しみにしていられると思います。私は坂戸さんに是非一度お会いしてみたいな、と思っています。

坂井先生の情熱と五十嵐さんの情報技術を借りて歩み始めたセンター便り、ここまで無理なく楽しく続けてこられたのは先生はじめ、センター職員、他の編集委員の方々、皆様のご協力のお陰と感謝しております。

七生報我 皆川昭三

と考えると本当に誇りに思う。学習の終点は果しない。

そこで私の造語としてテーマに掲げた『七生報我』を、みんなと共に脳に植えつけ、今後の励みにしたい。

私事で恐縮ながら、現在単位シルバークラブの会長と地区連合会の会長を兼ね、スケジュールに追い回されつつ市の高齢者福祉大学の特別講座運営委員会(十ヶ月任期)を任されている。自分で漁り学んだ図書や新聞の切り抜きをネタにして講義を担当することもある。辛い中で再び学園に戻る私である。

7年間の思い出 松本道男

1998年4月1日、UA神奈川学習センター「はるだより」が創刊されました。「志を同じくして、共に学んでいる方々が、情報を共有し、互いによきメッセージを送りあう場として私たちを繋ぐ絆となりますように」というお言葉を、当時の浜口センター長より創刊の辞として戴いています。

私はその年の7月1日の「なつだより」より放友会代表の一人として編集に携わりました。そして次号に「弘明寺商店街の紹介」をする事になり、私は弘明寺観音を担当しました。十数年振りお寺を探訪した記事の中で、弘法大師が彫ったといわれている秘仏歓喜聖天をぜひ皆さんにも拝観して戴こうと紹介しました

ところ、相応の反応があり、皆さんがこのセンターだよりをよくご覧になられている事を知りました。

当初は記事不足が生じますと、編集委員の皆さんがいろいろと書きました。私も記事の他に、俳句も載せて戴いたことがありました。

そして、2000年4月1日の「はるだより」から坂戸五葉さんからイラストやカットを戴き表紙や記事の行間に彩りを添え現在に至っています。近年は学習センターに学ぶ皆さんの積極的な投稿によりますます充実した紙面になっていることを嬉しく思っています。

また、学生団体・サークルのお知らせ欄を拝見しますと、皆さんがいる

いろなサークルでご活躍されている様子がよく分かります。

現在、神奈川放友会では行楽と研修を兼ねた旅行、学習履歴表に依る情報交換、会員相互の研究発表、IT技術の活用で清風亭ネットの会、パソコン講習の他、今年からインターネット俳句会を立ち上げました。大変ユニークな句会と自負しています。

昨年末は坂井先生を中心に編集委員一同初めての忘年会を開きました。年4回、楽しく和気藹藹のうちに何時の間にか7年が過ぎていました。坂井先生のご人徳に感謝しております。

UA神奈川学習センター はるだより編集部

発行者：神代和俊

編集者：五十嵐、遠藤、星、加藤、松本、皆川、吉田、村山、石川、坂井

・学習センターだより編集部の方がた、とくにイラストの坂戸さん、印刷担当の村山さんには、感謝の言葉もないくらいです。創刊以来7年間、一号も欠かすことなく、このセンターだよりを発行できたのは、皆さんの貢献のおかげです。次号からの新たな編集部へ、無事バトンを渡すことのできることを感謝いたしたいと思います。（坂井）

ホームページもご覧ください。
<http://u-air.net/kanagawa/>

神奈川学習センターの人事では、神代所長に代わって、森谷所長。坂井助教授（神奈川から千葉へ）に代わって、原田助教授（埼玉から神奈川へ）。事務では、吉野さん、佐藤さんが退任され、青木さん（1月から就任）、柴田さん、大久保さんが就任します。また、志藤さんが視聴学習室に、片野さんが教務係に異動します。